

新社会人イメージのクラフトビール

「春風」「鳳の翔き」 デザインに取り組み

商・渡辺達朗ゼミ



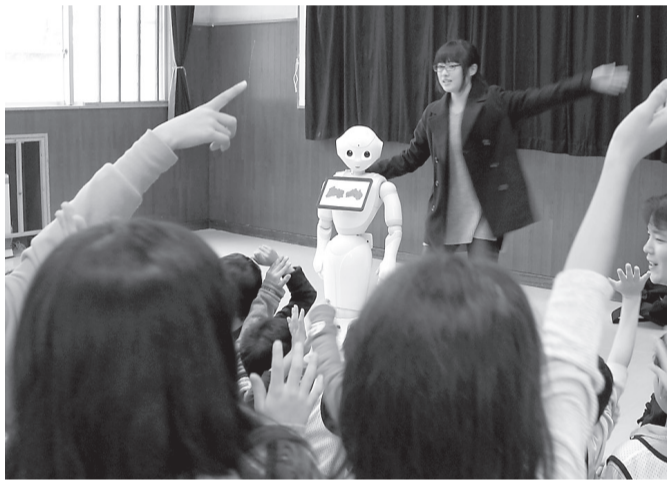
「春風」(左)と「鳳の翔き」
ゼミ生双方から声が上がった。

地域や商店街の活性化をテーマとする商学部・渡辺達朗ゼミの3年次生16人(原田拓也ゼミ長)が、地元のクラフトビール店(職人の手作りビール醸造所)が今春売り出すビール2種のネーミングならびにラベルとコースターづくりに取り組んでいる。「新社会人」として巣立つ人々をイメージした。ゼミ生は3月の卒業式までに完成させ、ゼミの先輩にも「プレゼントしたい」と意気込む。

渡辺教授(右端)とゼミ生たち(前列左端)とゼミ生たち(川崎市登戸)。欧米の伝統的手法で醸造したビールを、併設のレストランで提供している。専大とは関係が深く、2012年にも商学部の前川明彦ゼミが、ネーミングとラベルデザインを担い「スピカ」を生産させた。同店オーナーの地井悦子さんが一昨年、昨年と渡辺教授が担当する授業「リレーションシップマーケティング」などで講義し、「一緒にビールをつくらう」と地井さん、

学生たちは話し合いを重ね、地井さんに「新社会人向けにさわやかなビールをつくって」と伝え「春風」は高温で醗酵させるエール系で、アルコール度数と苦みが抑えられている。「鳳の翔き」はビルスナー系。まろやかで飲み応えがある。渡辺ゼミ生は、1月末のゼミ合宿を経て現在、コースターと瓶詰用のラベル製作が大詰め。間瀬遥香さんは「ビールが苦手と言った人が一度飲んでほしい」と、中橋由季さんは「ゼミの研究でビール文化の奥深さを知りたい」と期待している。

江原プロジェクト ネットワーク情報学部 児童向けアプリを開発した。12月22日、生田キャパ(ペッパー)が「出張」。学生たちが作ったアプリからクイズを出題し、小学生らを楽しませた。



子どもたちの前で学生が開発したクイズアプリを表示するペッパー

江原プロジェクトでは、ペッパーのアプリ開発の初心者向け参考書『Pepperを始めよう』を書籍化。電子書籍として販売している。

「経営情報分析」の授業 渡辺教授が担当する授業「リレーションシップマーケティング」などで講義し、「一緒にビールをつくらう」と地井さん、



フィンテック・サミットに参加した藤吉さん、野田さん、重中さん(左から)

フィンテック・サミットに参加した藤吉さん、野田さん、重中さん(左から) 重中秀介さん(4年次)、野田大貴さん(3年次)、藤吉真愛さん(3年次)は学部の学生にア

子どもたちに披露

江原プロジェクトでは、ペッパーのアプリ開発の初心者向け参考書『Pepperを始めよう』を書籍化。電子書籍として販売している。

金融×IT「フィンテック」 ネット情報から挑戦

米国発祥で、近年注目を集めている金融サービスに「フィンテック」がある。金融とIT技術を融合させ、新たな価値を生み出そうという動きを生かしたい」と重中さん、ネットワーク情報部の学びに通じる。

研究成果を発表



注目を集めた沼プロジェクトのバーチャルアイドル 今年度は28プロジェクトが活動。10号館の各教室には研究や成果物の内容をまとめたポスター、作品などが展示された。沼晃介プロジェクトは3Dキャラクターのデザインと楽曲の制作を行い、バーチャルアイドルをプロデュースした。

外国語のススメ 外国語教育研究室

フランス語 根岸 徹郎 法学部教授 バベルの塔は、聖書の「創世記」に出てくるお話です。かつて、人々は同じひとつの言葉を話していた。彼らは天まで届くような高い塔を持つ町を作ろうと考え、建設を始めた。それを見た神は、「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているからこのようなことを始めたのだ」と考え、言葉を混乱させて互いの言葉が聞き分けられないようにしたので、人々は各地に散っていった。